

通教月報

診療情報管理研究

令和3(2021)年2月号

編集 武田 隆久  
発行人 一般社団法人 日本病院会 教育部教育課  
〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <https://jha-c.jp/> ※4月1日より変更  
受付時間 10:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発行日 毎月1日

## 患者さんやご家族の不安に寄り添いながら

藤本 宏明

社会医療法人大道会 森之宮病院 脳神経内科

新年早々、新型コロナウイルスの蔓延に伴い、2度目の緊急事態宣言が各地で出されました。今後、ある程度の収束が迎えられたとしても、変化した就業形態や生活様式の一部は定着していくものと考えられます。当院の診療情報管理士の方々に以前との変化について聞き取りをしましたが、就業内容の変化よりも精神的ストレスの蓄積が感じられます。私は、普段は、臨床医師として脳卒中や神経変性疾患のリハビリテーション治療を行いながら、神経リハビリテーション分野の臨床研究に携わっています。感染症治療の最前線に立っておられる先生方とは雲泥の差ですが、それでも少なからず業務における変化があり、今回はその一部をご紹介します。

まず感じることは、感染対策によるご家族との面会禁止によって、患者さん・ご家族への心理的な影響がみられています。本来、疾患や障害を抱えて不安を感じている患者さんにとって、ご家族とのコミュニケーションが大きな支えとなりますが、直接会えないことで不眠や抑うつ傾向となることや、リハビリテーション治療を受けているにも関わらず認知機能が低下する患者さんがみられるようになりました。ビデオ通話などの手段を活用し始めましたが、言語機能障害によって言葉の理解や発話ができない患者さんでは、ご家族の表情を見てもうまくコミュニケーションがとれずにむしろ混乱されることもあります。また、高齢者で二人暮らしをされているケースでは、患者さん本人と会えないことで、残ったご家族の認知機能が低下することもあります。面会禁止はまだまだ継続する必要があり、ご家族へは電話で病状説明を行っています。どこまで理解されたか、ご家族の不安や希望が何なのか、相手の顔が見えない分、今まで以上に相手のことを考えるようになりました。

診療情報管理士通信教育では、コロナ禍以前より既に Web 授業が導入されています。対面授業では、受講生の姿勢や雰囲気などで、理解しているかどうか伝わりやすく、そのような場合には時間をかけて説明することができます。私は Web 授業の作成には携わっていませんが、担当された先生方は、大変苦労して作られたのだと思います。受講生の皆さん、コロナ疲れを感じている方もおられるでしょうが、医療従事者となる自覚をもって、大いに Web 授業を利用していただき、無事に資格取得されることを切に願っています。